



京都タロット宇宙のメサイージュ®

別冊！

京タロ指南書

めくるめくシンボリズムの世界

#02 イザナミイザナギ考

岩倉ミケ

奇想庵



目次

黄泉比良坂より	
ケガレと祓い	3

黄泉比良坂より

ケガレと祓い

神道というのは自然信仰といいますか「教えなき教え」だと聞いたことがあります。とは言え、もっとも重要視されていることは「穢れと祓い」。血液や死を「穢れ」として忌み嫌い、その穢れを「祓う」ことが大事であるとされ、「ケガレとハラヒ」は思想として昇華されているように思えます。

その思想の大元となっているのが、伊弉那岐命イザナギノミコトと伊弉那美命イザナミノミコトとの黄泉比良坂よもつひらさかにおける対決シーンがあります。

黄泉比良坂神話とは、超要約すると、

「帰らぬ人となった妻イザナミをイザナギは忘れられず、黄泉の国まで迎えにいくが、死者となった妻のおぞましい姿を見て逃げ帰ろうとし、激怒する妻と対決。その時に付いてしまった穢れを、イザナギは祓う。その穢れから、アマテラスとスサノオとツクヨミの三神が生まれる……」。

この話だと、死者＝穢れと読めてしまいましたが、私には、そのような解釈は短絡的だと感じます。しかし一般的には、こちらの短絡的解釈の方を、人間界は何世紀も支持をしてきました。

神話というのは、そもそも擬人化というか、擬神化なのに、なぜか、ここを擬神化して捉えないのでしょうか。(神々が、あちこちで浮気をしまくっているお話については、たとえば「生命」の力強さと広がりを表現している……などと、好んで置き換えがされたりしますよね。むしろ、こっちの方が、そのままの解釈の方が自然に感じますけど) 笑

黄泉比良坂におけるイザナミとは、死者であり、神話での死者は「過去」、あるいは「記憶」のことだと考えれば、明快な解釈ができます。本来、忌むべきものは、血や死というより、もう終わったこと、過ぎ去ったことに執着すること、と彼らのストーリーから読み解くことができるのです。

ちなみに、これは京都タロット内の「勾玉の帝」である、浦島太郎の解説と同じですね。

(ここで、誤解のないように補足します。過去への執着がケガレであるとする、人の死を悼むことすらケガレだと誤解があるかもしれません。愛する人が亡くなった時に、悲しむことは人の心情として当然であって、すぐに気持ちが切り替えられるわけもないし、そんな必要ありません。悲しい時には、じゅうぶんに嘆くことも、むしろ必要でしょう)

黄泉比良坂神話では、本当は、死や血そのものを忌むものとするより、死者が「腐る」ということは、どういうことを意味しているのかを提起してくれているのと言えるのではないのでしょうか。

「イザナミ」そして「黄泉比良坂」「黄泉の国」が象徴しているのは、過去は、ただの遺物であるということ。イザナミが死後おぞましい姿であったとは、「過ぎ去ったもの」や、そんな過去の「記憶」が、「ケガレ」であることを暗喩し、イザナギが踵を返して逃げ帰ったことは、そのことに直面して気づき、^{ひるがえ}翻ったことを指します。

そうして、過去をふききったとき(=祓い)、はじめて、ケガレであった過去が、新たな神(新しい何か)を生み出す「元」になるのですね。

ケガレと祓い——それは、本来、私たちの心の中でも、淡々で行うことができるもの。

「穢れ」なる想念は、日々の煩わしさから、都度、生まれます。ただし、その都度、祓っていくのです。生きていれば、穢れは生まれます。地上の世界においては、それが生きていることとも言えるでしょう。

だから、穢れては祓う、穢れては祓う、穢れては祓う……。

雑草が生えれば、刈り取るように、心の中の雑草もまた、刈り取り続けていきます。

「稲穂」もまた、そうですね。枯れると同時に刈り取る（祓う）ことで、実り（神）が生まれます。

要するに、そこに生の動きがあれば、いつかは枯れます。これ自体は宿命です。枯れば刈り取ります。生きるとは、その繰り返しではないでしょうか。

神道が教えなき教えと言われるのは、この繰り返し、当たり前、自然現象だからなのでしょう。生あるものは死に、現象はいずれすべて消え去るという宿命を、宿命として受け止め、執着せずに流していく……という人間本来の在り方を、黄泉比良坂という大ストーリー仕立てで示してくれているように私には思えてなりません。

日本神話の髄ともいえる「祓い」の思想は、人が健やかでいる在り方を、非常にシンプルに教えてくれるものと言えます。

※今回のお話に関する、主な京都タロットのカードデッキやモチーフは、イザナミ、イザナギ、勾玉の帝、稲穂の宮（←このピクチャーは「稲穂の六」）



03-イザナミ.jpg



イザナギ

04-イザナギ.jpg



勾玉の帝.jpg



稲穂の六.jpg

そこから、さらに関連する京都タロットは、たとえば稲の神としての「伍・イナリ」があります。



5inari.jpg

また、忘却の大切さを説く「八・エンマ」は、「祓い」の思想を変化形と捉えることも
できますね。



8enma2.jpg

(指南書でもたびたび伝えているように、一つのカードにはたった一つの意味しかないわけではありません。多層多重のカードと連なり合っています。多面から読み解けるのが楽しいカードです)

『別冊！ 京タロ指南書』# 02. イザナミ・イザナギ 黄泉比良坂より (完)

[# 03 に続きます] (←無料)

I 奇想庵 (岩倉ミケ)

<『京都タロット宙のメッセージ 最初の指南書』のご購入は、こちらのページから>
→



別冊！京タロ指南書 #02.イザナミイザナギ考

著 岩倉ミケ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
